

はじめに

史跡 飛鳥宮跡は、飛鳥時代の宮殿遺跡です。これまでの調査研究で、Ⅰ～Ⅲ期の3時期の宮殿遺構が重複して存在することが判明しています。Ⅰ期遺構が舒明天皇の飛鳥岡本宮、Ⅱ期遺構が皇極天皇の飛鳥板蓋宮、Ⅲ期遺構のうちⅢ—A期が斉明天皇・天智天皇の後飛鳥岡本宮、Ⅲ—B期が天武天皇・持統天皇の飛鳥浄御原宮と考えられています。

今回の調査は、奈良県による飛鳥宮跡・飛鳥京跡苑池整備活用事業に伴うもので、飛鳥京跡第190次調査にあたります。調査区は昨年度調査区（第189次）の南隣に位置し、飛鳥宮跡Ⅲ期遺構の内郭の西北部にあたります。調査の目的は、1965・1970（昭和40・45）年度の第7次・第21次調査で検出した遺構をあらためて精査するとともに、現在の国土座標に位置づけることにより、周辺で検出されている遺構との位置関係を明らかにすることです。

発掘調査の成果

（1）主な検出遺構

①北一本柱列 SA5901 昨年度の第189次調査でも検出した内郭北辺を画する東西方向の掘立柱塀です。調査区東北部で柱抜き取り穴を6基検出しました。推定される柱間寸法は約2.1m（7尺）です。柱掘方の平面形は隅丸方形で、規模は一辺1.2～1.4mです。

②掘立柱建物 SB6215 桁行7間（約19m）×梁行2間（約5.4m）の東西棟で、南北それぞれに廂がつく構造に復元できます。柱掘方の平面形は隅丸方形で、規模は一辺1.2～1.5mです。推定される柱間寸法は、約2.7m（9尺）です。

③掘立柱建物 SB6510 桁行5間（約12m）以上×梁行2間（約5.4m）の東西棟で、廂を伴わない構造です。柱掘方の平面形は隅丸方形で、規模は一辺1.2～1.5mです。推定される柱間寸法は、桁行方向で約2.4m（8尺）、梁行方向で約2.7m（9尺）です。掘立柱建物 SB6215 と東西方向の柱筋が一致します。

④石組溝 SD5902 東西方向の石組溝で、幅は約0.5mです。底石には掌大ほどの平坦な石、側石には人頭大の石を横長に使用しています。溝の深さは0.15m以上に復元できます。北一本柱列 SA5901 の

南側の雨落ち溝に相当します。

⑤石組溝 SD6515 南北方向の石組溝で、幅は約0.6mです。底石には径10cmほどの小礫、側石には人頭大の石を横長に使用しています。溝の深さは0.15m以上に復元できます。

⑥掘立柱塀 SA02301 調査区を斜めに横断する13間以上の柱穴列で、検出長は約35.0mです。柱痕跡や柱抜き取り穴には、赤褐色の焼土や炭化物が多く混じります。推定される柱間寸法は約2.7m（9尺）で、柱筋は東に対して北に約25°の振れを持っています。

（2）遺構の時期

造営方位や既往の調査で検出された遺構との関係、遺構間の重複関係から、①～④の遺構は飛鳥宮跡Ⅲ期遺構に、⑤の石組溝 SD6515 はⅡ期遺構に属すると考えられます。

一方、⑥の掘立柱塀 SA02301 は、遺構の重複関係とともに、柱筋の方向や、柱痕跡および柱抜き取り穴に焼土や炭化物が多く含まれることが、これまでに周辺で確認されているⅠ期遺構と共通することから、Ⅰ期遺構と考えられます。

まとめ

既往調査における検出遺構の再評価 第7次・第21次調査で確認されていた遺構をあらためて精査した結果、掘立柱建物 SB6215 と掘立柱建物 SB6510 の東西建物が、東西方向の柱筋を一致させて配置されていることが明らかになりました。

その結果、飛鳥宮跡Ⅲ期遺構の内郭西北部において、2棟の東西建物が東西に整然と並ぶ建物配置を復元できるようになりました。

Ⅰ期遺構の新事例 調査地一帯は史跡指定範囲に広く含まれるため、Ⅲ期遺構の下層で検出されるⅠ期遺構およびⅡ期遺構は、きわめて断片的な確認にとどまっています。

今回検出した掘立柱塀 SA02301 は検出長約35mに及ぶ長大な遺構で、Ⅰ期遺構の区画施設としては初の検出事例です。舒明天皇が造営した飛鳥岡本宮にも推定されるⅠ期遺構の広がりや配置に新たな情報を提供するものであり、大変貴重な調査成果といえます。



史跡 飛鳥宮跡（飛鳥京跡第190次調査） 現地説明会資料

2023年11月25・26日 奈良県立橿原考古学研究所 〒634-0065 奈良県橿原市畝傍町1番地

Tel.0744-24-1101 <http://www.kashikoken.jp>（過去の現地説明会資料は、こちらからご覧いただけます。）⇒



調査区全景（南西から）

史跡 飛鳥宮跡（飛鳥京跡第190次調査）

Asuka Palace Site (National Historic Site)

現地説明会資料

2023年11月25日（土）・26日（日）



令和5年度日本博2.0事業（委託型）

主催：文化庁

独立行政法人 日本芸術文化振興会

奈良県立橿原考古学研究所



調査区垂直画像



調査区全景（東から）



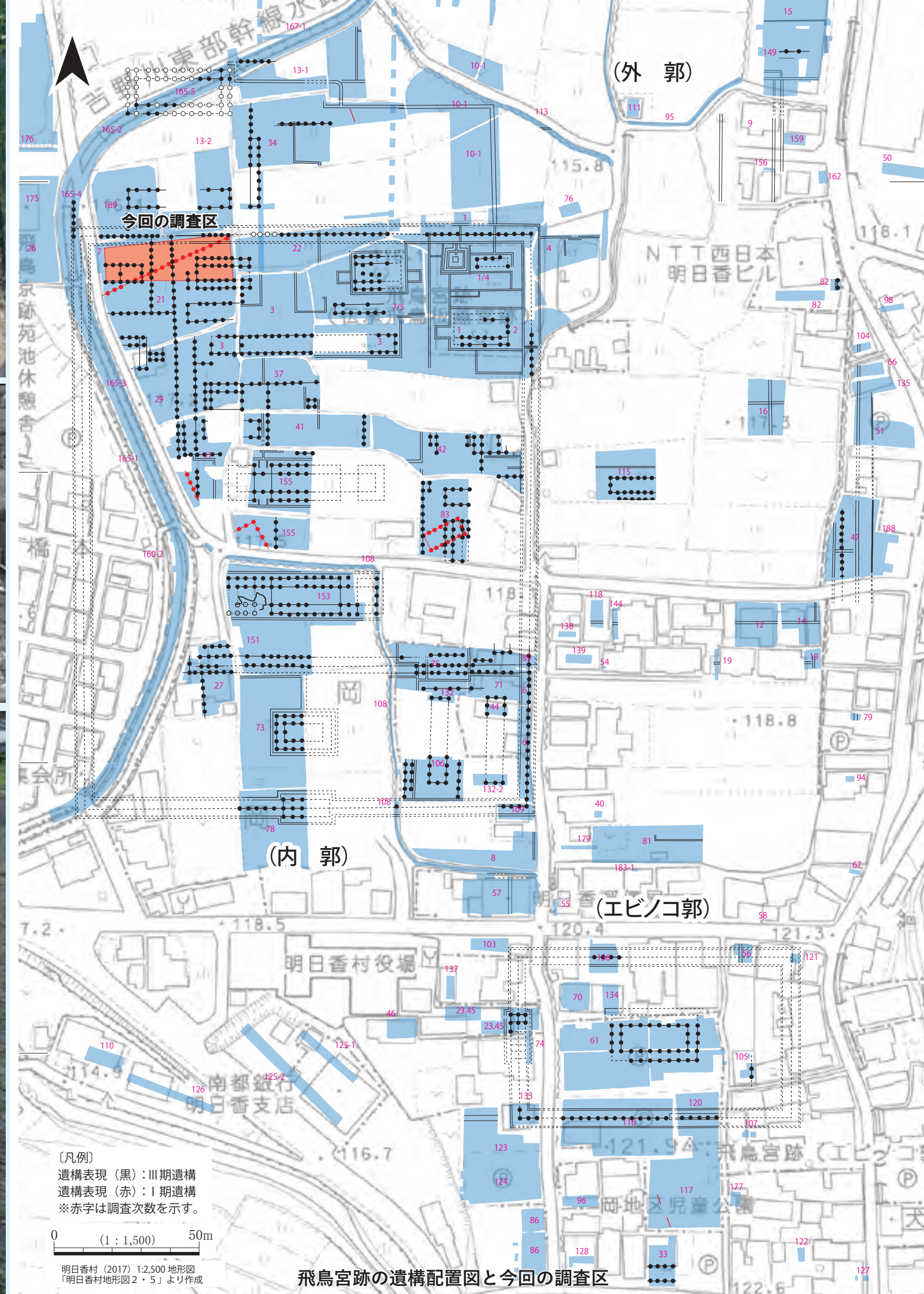
第7次調査時の全景写真（東から）



飛鳥宮跡と周辺の主要遺跡



掘立柱塙 SA02301（南西から）



飛鳥宮跡の遺構配置図と今回の調査区